諸方言コーパスを使った方言の分析（1）

田附 敏尚（神戸松蔭女子学院大学）

方言コーパス研究発表会
「日本語諸方言コーパスデータを使った方言の分析」
平成30年9月6日（木）
国立国語研究所 多目的室

1

はじめに

2

はじめに

■発表者の素朴な疑問
「どこにあるの」
→ 東京：どこにあ**んの**
→ 神戸：どこにあ**るん**

この地域差（分布）は、
どのようになっているのだろうか？

3

はじめに

■随意的な撥音化（音便）現象
たとえばテ形音便は……
「飛びて」→「飛んで」
「読みて」→「読んで」
→ 規則的

しかし、
「食べるな」→「食べんな」
「今のところ」→「今んところ」
→ 不規則的（随意的）

規則性がないからこそ、談話資料は有効なのでは。

4

はじめに

■目的

随意的撥音化現象がそれぞれに起こりうる
「る」と「の」の連続は、
日本各地においてどのような形となって
実現しているのかを描き出す。

5

調査方法

6

調査方法

➢データ

「日本語諸方言コーパス モニター版」の
基礎データ

7

調査方法

➢抽出方法

- 標準語テキストで「るの」「るん」を検索
- ゴミを削除

例：ソレサ　カミニ　クルンデ
　　それを　紙に　　くるんで
例：ホンデノー　ハラ　フクラカスノワ　サンドヤケドー
　　それでね　腹［を］　ふくらませるのは　三度だけど

- 1 セル中に2つ以上ないか確認

例：シター　ガラガラ　マワシヨルノニ　マワリヨルン。
　　下は　　がらがら　回しているのに　回っているの。

8

調査方法

➢抽出方法

- 「るの」に当たる部分を以下の５つに分類

るの ru-no　例：シテ**ルノ**
んの N-no　例：シテ**ンノ**
るん ru-N　例：シテ**ルン**
ん　N　例：シテ**ン**
その他　例：シテ**ンネン**、シト**ルカ゜**

N-Nという連続が許されないため、
単純化する規則が働いていると考える。

調査方法

➢抽出方法

※本来はこれとともに、標準語テキストで
「るの」「るん」を含まないフィルターをかけ、
方言テキストで「ルノ」「ルン」「ンノ」などを
検索しないと完全なものはできないが、
今回は時間の都合で省略。

例：タネ　ノケルンナ
種［は］　除くのか。

こうして集めた「るの」は、全国で**1440**件。

調査結果

そもそも標準語テキストの
「るの」の出現数が少ない

「るの」があっても
方言の形式名詞が
「の」ではない

地点	ru-no	N-no	ru-N	N	その他	総計
北海道	1	9	1	9		20
青森	7		31	1	7	46
岩手	2	2	4	15	4	27
宮城	1	14	18	12		45
秋田	1		2		15	18
山形	1	1	5	1	16	24
福島		7		11	2	20
茨城	1	17	5	60	3	86
栃木	2	4	2	17	1	26
群馬	3		29	12	2	46
埼玉	2	1	15	12		30
千葉		14	1	3	53	71
東京	9	18	17	19	2	65
神奈川	6	6	9	5	3	29
新潟	1		7		33	41
富山	1				31	32
石川	1				11	12
福井	8	3	35	10		56
山梨	7				19	26
長野			3		2	5
岐阜					1	1
静岡	2				28	30
愛知	3				30	33
三重			2	10	1	13

カ゜

Ø

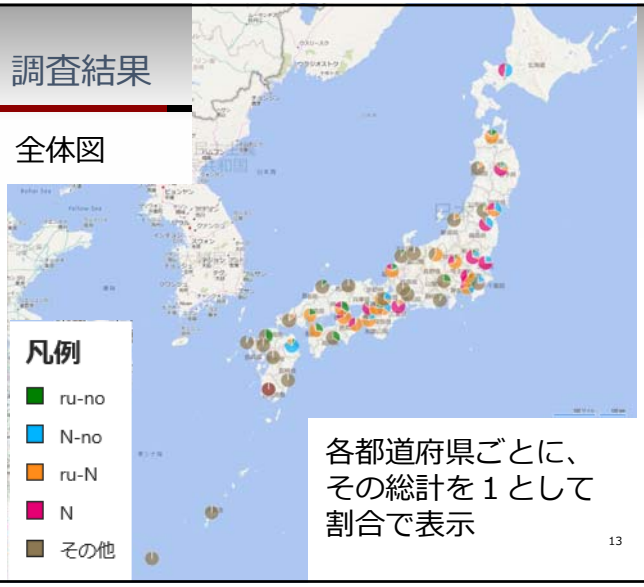
地点	ru-no	N-no	ru-N	N	その他	総計
滋賀	1	5	2		14	22
京都	2	2	11		3	18
大阪	3	2	11	1	3	20
兵庫	1	6	10	13	5	35
奈良		12	6	4	11	33
和歌山	2	5	18		7	32
鳥取					2	2
島根	1				6	7
岡山	20	2	26	12	1	61
広島	15		57			72
山口	1		3	1	25	30
徳島	1	2	38	19	1	61
香川	8	1	52	25		86
愛媛	14	1	31	1	2	49
高知	2				4	6
福岡	1				1	2
佐賀					10	10
平戸		2			27	29
熊本					17	17
大分	1	10	2			13
宮崎					25	25
鹿児島						0
今帰仁					3	3
宮古島平良					5	5
総計	132	146	453	273	436	1440

ソ

ト

調査結果

全体図



各都道府県ごとに、
その総計を１として
割合で表示

13

調査結果

➢これだけでも違いはありそう。
だが、これだけではあまり
意味はない。
→ どのような環境において
どのような形で
出現するかが重要。

⇒ 後接部ごとに見ていく。

後接部	総計
ダ（コピュラ）	412
ø（文末）	171
デス（コピュラ）	143
ジャ（コピュラ）	112
ヤ（コピュラ）	109
ワ（副助詞）	59
ø（無助詞）	57
カ（終助詞）	50
ガ（格助詞）	43
ヨ（終助詞）	34
ニ（格助詞）	27
オ（格助詞）	26
デ（接助ので）	26
ニ（接助のに）	24
ナ（終助詞）	21

14

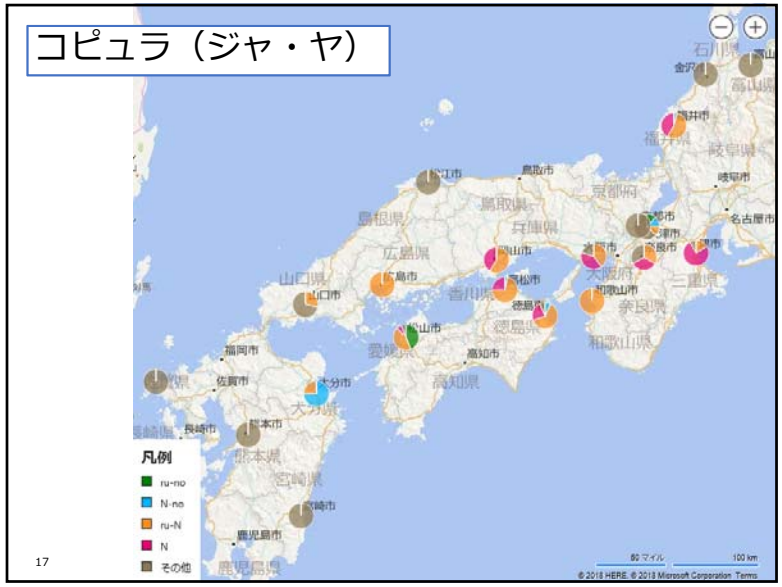
コピュラ（ダ・ジャ・ヤ総合）

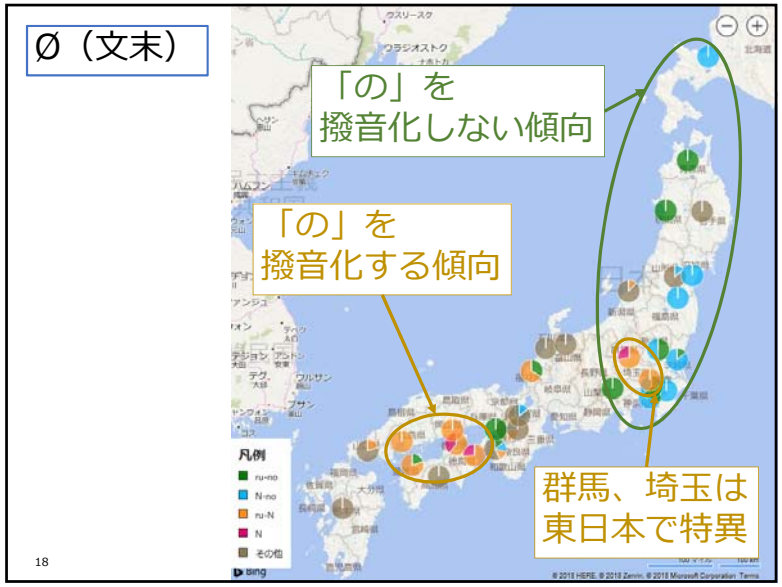
→音韻・形態的な問題？
地域的な問題？

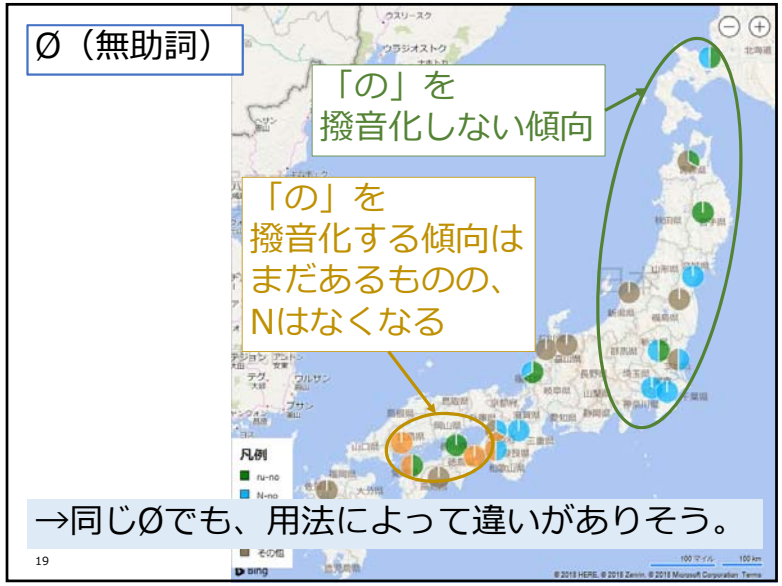
15

コピュラ（ダ・デス・デショー）

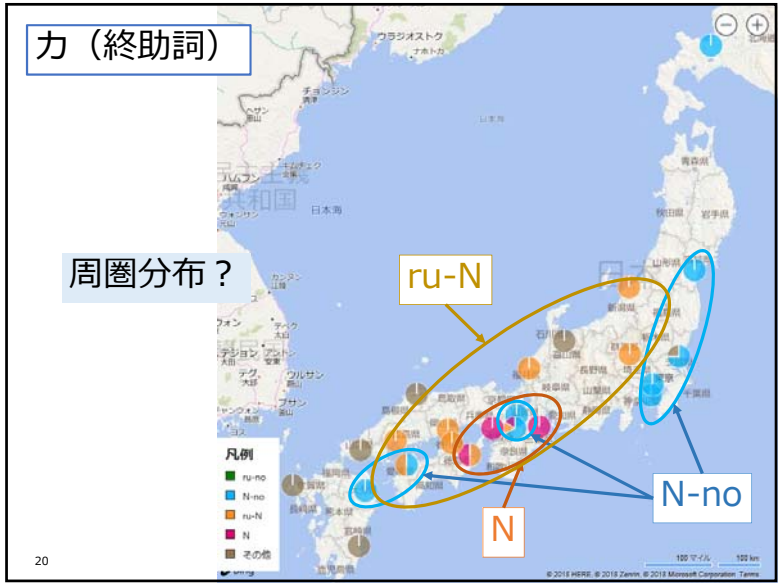
16



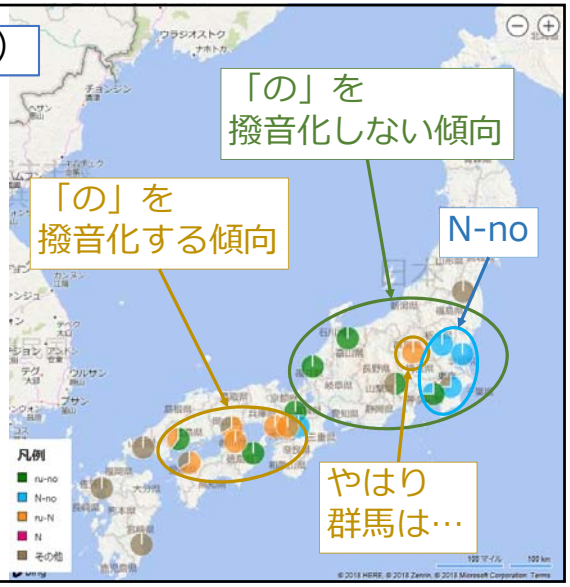




→同じØでも、用法によって違いがありそう。



ガ（格助詞）



21

オ（格助詞）

22

ワ（副助詞）

→西日本のガ・オ・ワに関しては、
音韻・形態的な問題で差が生じているか。
（後続子音に子音性がないと「の」は
撥音化しないという制約）

23

ノニ（格助詞<のときに、のために>）

24

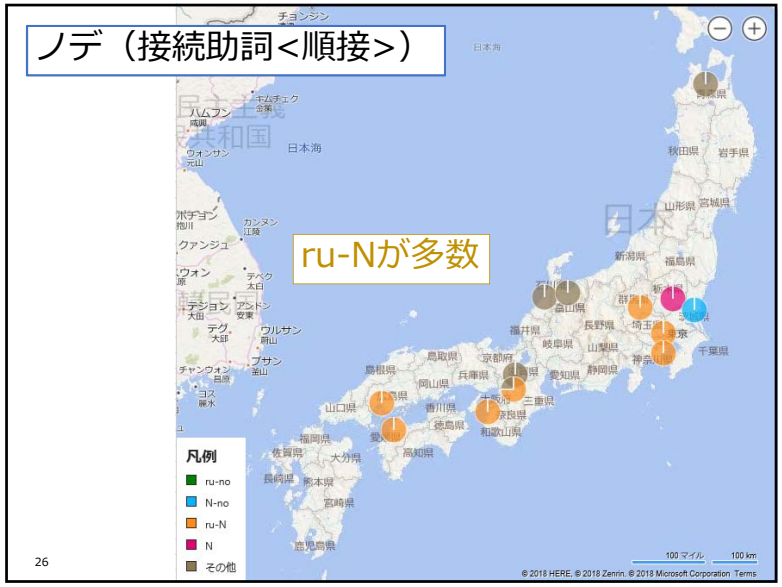
ノニ（接続助詞<逆接>）

→ru-NとNがほとんどない
⇒「の」の形態的明示性が必要？
⇒「ので」は？

→（ノ）ニ（格助詞）と
ノニ（接続助詞）の違いは？

25

ノデ（接続助詞<順接>）



26

おわりに

27

おわりに

- いくつか分布図を作成してみたが、
  - ・音韻・形態的な要因がどの程度はたらくか
  - ・用法の差がどの程度反映されているのか

  に地域差があり、それによって分布が変わってくるものと思われる。
- そもそもの各地の「る」「の」などの随意的音便（撥音化・促音化）現象を詳細に記述する必要がある。

28

参考文献

木川行央・久野マリ子（2012）「神奈川県小田原市方言におけるラ行音の撥音化」『Scientific Approaches to Language』11, pp.89-101

斎藤純男（1986）「話し言葉におけるラ行音およびナ行音のモーラ音素化」『日本語教育』60, pp.205-220

城生佰太郎（1977）「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語５ 音韻』p.107-146

室山敏昭(1970)「鳥取県東伯郡羽合町方言のラ行音節の促音化・撥音化現象について」『国語国文』39-09